

< あなたの治療について >

消・外 - Cmab - 大腸 - weekly

今回の治療は、Cmab という治療法で、アービタックス (C225) という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は1週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を1週間(7日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~7日目
	レスタミン (アレルギーを抑える薬)	内服		お休み
	デキサート (アレルギー予防・吐き気止め)	点滴 約15分		
	アービタックス (抗がん剤) 初回400mg/m ² 2回目以降250mg/m ²	点滴 初回約2時間 2回目からは 約1時間		
	生理食塩液 (電解質)	点滴 初回約1時間 2回目からは 約15分		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

アービタックスについて

ざ瘡、発疹、皮膚乾燥、そう痒症 爪囲炎 食欲不振、悪心 下痢 口内炎 疲労
低マグネシウム血症 リンパ球減少

*ざ瘡、発疹、皮膚乾燥、そう痒症 爪囲炎などの皮膚障害については、別添の資料を参照して下さい。

特徴的な副作用について

アービタックスにおける

infusion reaction

「気管支痙攣、蕁麻疹、低血圧、意識消失、ショック」などの症状

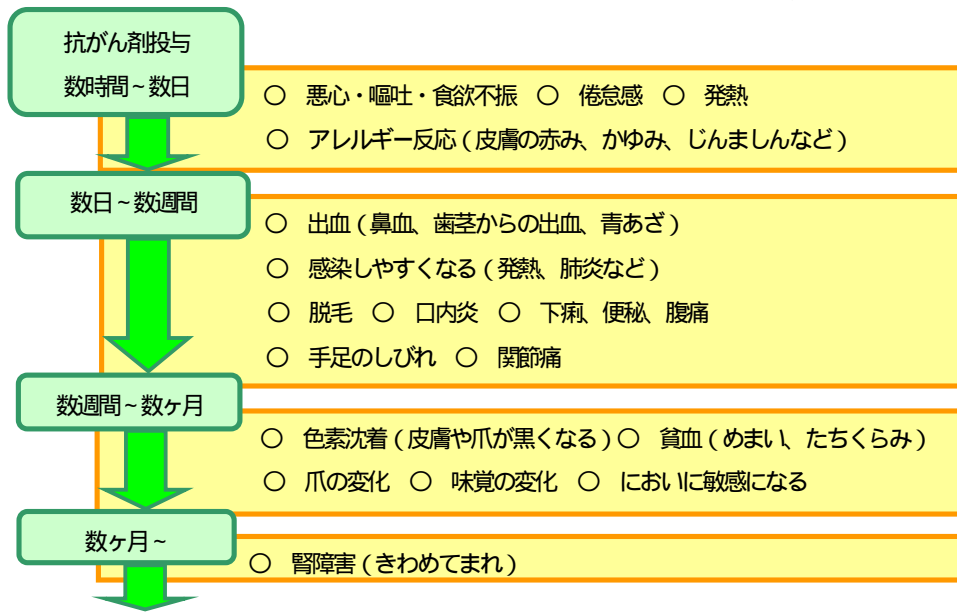
*異常を感じた時はすぐに知らせてください。また、症状の予防として、本剤投与前に抗ヒスタミン剤の服用とステロイドの注射を行います。

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

**薬品毎の副作用について(添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋)
まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

【アービタックス】

<アナフィラキシー様症状>急に呼吸が困難になる、蕁麻疹、血圧低下

<皮膚症状>ざ瘡様(にきび様)皮疹、皮膚の乾燥及び亀裂(炎症性及び感染性の症状が続く)

<間質性肺疾患>咳が続く、息苦しい、発熱、から咳がでる

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。